

## 放射線安全フォーラム 第74回放射線防護研究会「大気拡散モデルの現状と原子力防災でのあるべき位置づけ」

### 開催趣旨

国の原子力災害対策指針（2019年7月3日）によれば、原子力施設緊急時にはSPEEDI（緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム）は使用せず、緊急時モニタリングの実施と、そのための体制整備を図ることになっています。しかしながら、様々な箇所に設置されたモニターからのデータや航空機モニタリングをたとえ駆使したとしても、避難計画の策定には大きな困難が予想されます。迅速に、かつ、ダイナミックで面的な放射性物質の移動を予測し、可視化するには、大気拡散シミュレーション技術は一定の役割を果たせるだろうとの期待もあります。特に、直近のノーベル賞では気象予測でのコンピュータシミュレーション技術の開発研究が物理学賞を受賞し、スーパーコンピュータによる予測精度の向上が進んでいることが国際的にも高く評価された現状にあります。

今回の研究会では、長年にわたり放射性物質の大気拡散モデルの開発研究に取り組んでこられた名古屋大学の山澤弘実先生から、原子力防災と緊急時対応の現状と、さまざまな大気拡散モデルの現状をご紹介いただき、日本原子力研究開発機構の永井晴康先生より、モデルを用いたシミュレーションの開発や自治体等におけるその活用の現状をご紹介いただきつつ、原子力施設の緊急時オフサイト評価に大気拡散モデルがどのように貢献できるのか、今後の課題や道筋について意見交換をします。皆さまのご参加、お待ちしております。

### 記

#### 1. 日時、場所

日時：2022年6月18日（土）15:00～17:30

※いつもの開催時刻と異なりますのでご注意ください。

場所：WEB（オンライン）での開催とします。インターネットへの接続が必要です。快適に参加するためにDownloadの速度は20 Mbps以上をお勧めします。

#### 2. プログラム

司会：飯本 武志  
東京大学環境安全本部（放射線安全フォーラム）

講演 1：山澤 弘実  
「原子力防災と緊急時対応 及び 大気拡散モデルの現状」  
名古屋大学大学院工学系研究科

講演 2：永井 晴康  
「大気拡散モデルを用いたシミュレーションの開発及びその活用の現状」  
日本原子力研究開発機構原子力機構基礎工学研究センター

総合討論

3. 参加費：（放射線安全フォーラム会員は無料）

一般：2,000円

学生：無料（HP 申込時に学校名、学部・学科、大学院の場合、研究科・専攻、  
下一桁を除いた学生番号を記入してください）

詳細は、ホームページをご参照願います。 <https://www.rsf.or.jp>

4. 参加申込み：ホームページよりお申込み下さい。

<https://www.rsf.or.jp>

事前登録制です。定員は100名を予定しております。参加費は事前振り込み  
をお願いいたします。

参加される方は必ず受付フォームよりフルネームを記入の上、参加申込みをお  
願いいたします。申込期日後 ZOOM 招待を申請（登録）されたメールアドレス  
に発信いたします。

受付期間終了後の参加お問い合わせは、事務局までお願いします。

5. 申込期日：2022年6月10日（金）17：00

6. 問合せ：

放射線安全フォーラム 事務局

E-mail：[mail@rsf.or.jp](mailto:mail@rsf.or.jp)